

2020年 松下幸之助の「孫弟子」育成塾、開講

伯仲塾

開講記念講演会のご案内



松下幸之助翁。

言わずと知れた、パナソニック（旧松下電器産業）グループ創業者です。

日本を代表する大企業を一代で築き上げ、「経営の神様」とまで称されたこの偉大な経営者の教えは、没後30年・パナソニック創業100年を超えた今でも、色褪せるところかますます輝きを増し、その教えや格言は最近に至るまで絶え間なく書籍や記事などで取り上げられています。

しかし、それらを通して、松下翁の「本当の教え」は、果たして伝えられているのでしょうか？

没後30年を経て、松下翁と直接会ったことがある方さえ減ってきている中で、松下翁とともに実際に仕事をし、直接指導を受けた経験のある方など極めて少ないのが現実です。

松下翁の講演や書籍から引用した「また聞き」の言葉から、その奥底にある松下翁の真意を汲み取るなどできるのでしょうか？

そんな状況を憂い、

もう私しか、「ナマの松下幸之助」を語る人がいなくなっただのは、寂しい限りです

と語るのは、江口克彦先生。

江口先生は、松下電器産業株式会社入社後、PHP 総合研究所に異動、松下幸之助氏の秘書となり、その後 36 歳の若さで松下翁から PHP 総合研究所の経営を任されました。

実は当時の PHP 研究所は、売上 9 億円、30 年間赤字続きの会社でした。江口先生は、その会社を 34 年間で売上 250 億円、内部留保 80 億円、社員 300 人の企業まで育て上げられたのです。

その成功の背景には、もちろん松下翁による指導がありました。しかも、並大抵の指導ではありません。

PHP 研究所に異動してから 23 年間、昼夜もなく土日もなく毎日・毎晩、指導を受けていたのです。休みといえば年始のたった 2 日間で、もう 3 日目には松下翁から呼出しがかかって、2 人でおせちを食べていたそうです。

文字通り、松下翁の側近にして「直弟子」だった訳ですが、松下翁の指導は、いつも「禅問答のようだった」と、江口先生は振り返ります。

松下翁の側で仕事をするようになって 2 年ほどの冬。京都の松下翁の別邸、真々庵でいつものように 2 人でお茶を飲んでいた時のこと。

木枯らしが吹き、杉木立のひゅうひゅうと鳴る音が聞こえていた折、突然松下翁から、

「きみ、風の音を聞いても悟る人がおるわなあ」

と言われたそうです。江口先生はその時、松下翁が何を言っているのか意味が分からず、ただ「はあ、そうですか」と返事をしただけ。

しかしその言葉が頭から離れず、後日その奥底にある松下翁の真意に気づいた時、江口先生は「体が凍る思いがした」そうです。

その真意とは何だったのか、それをどのように仕事や経営に生かしてこられたのかは、直接江口先生からお聞き下さい（この後その機会についてご紹介します）。

この話から分かるように、松下翁の「本当の教え」を理解し、それを実際に現場に活かすためには、表面的に言葉をなぞるのではなく、その言葉の奥底にある真意、松下翁の「心」を汲み取ることが大切なのです。

江口先生は、松下翁から 23 年間もの間、毎日・毎晩、指導を受け続け、その言葉の奥底にある「心」を汲み取ってこられました。

そして、PHP 研究所の経営責任者として 34 年、松下翁がこの世を去った後も、その教えを愚直に実践し、大きな成果を上げられたのです。

さらに松下電器理事、参議院議員、内閣官房道州制ビジョン懇談会座長などを歴任。

李登輝基金會最高顧問、台北駐日経済文化代表処（台湾大使館）顧問も務められ、台湾や李登輝元総統との親交も深く、日本と台湾で数々の叙勲も受章されています。

そして現在は、松下幸之助哲学・松下幸之助経営の伝道者として精力的に活動され、江口先生の指導を受けた経営者の中からも、飛躍的な業績を上げられる方が続出しています。

そんな江口先生は、まさしく、松下翁の哲学・思想・経営の真の実践者・伝道者にして、

「ナマの松下幸之助」を伝えられる 唯一の伝道者

と言えるでしょう。

このたび弊社では、江口先生にお願いして、ナマの松下翁、その「本当の教え」を継続的に学ぶことのできる塾の開講を決定しました。

禅問答のような松下翁の教えを心で解釈し、その真意を汲み取り、現場の経営に活かす「心解釈」の作法をご指導頂くという、文字通り江口先生にしか伝えられない極意を伝授頂きます。

塾名は、「伯仲塾（はくちゅうじゅく）」。江口先生に命名頂きました。

伯仲とは、中国での兄弟の呼び順からきた言葉で、上から順に「伯（はく）・仲（ちゅう）・叔（しゅく）・季（き）」と呼び、一番上の「伯」と一番下の「季」の違いは大きいですが、一番上の「伯」と二番目の「仲」の違いはさほどではないことから、優劣がつけがたいことを指します。

実力伯仲などの言い回しはここから来ているもので、「おじ」「おば」の漢字の違い（「伯父・伯母」「叔父・叔母」）も、ここから来ているものです。

つまりこの塾名には、ここに集う塾生が兄弟のような関係で結ばれ、互いに切磋琢磨し合う塾であってほしいという願いが込められています。

塾の開講は 2020 年 4 月からとなりますが、開講に先立ち、1 月 21 日（火）に江口先生の講演会を開催します。ここで最初に塾の詳細発表と募集を行いますので、ぜひ奮ってご参加下さい。

2020 年。御存知の通り、56 年ぶりとなる東京オリンピックが開催される年です。

56年前の1964年が、戦後の日本経済復興のシンボルとなったように、2020年が、令和時代の幕開けとともに始まる日本経済復興のシンボルとなることを願って、本塾を開講します。

その主役となるために、あなたにも、戦後の日本経済復興の立役者だった松下翁の「直弟子」江口先生から松下翁の「本当の教え」を学んで頂き、ともに松下翁の「孫弟子」としての誇りを胸に、日本の未来に貢献できることを、心より願っています。

株式会社リアルインサイト 代表取締役 鳥内 浩一

江口克彦先生 プロフィール



江口 克彦 (えぐち かつひこ) 先生

一般財団法人東アジア情勢研究会理事長
株式会社江口オフィス代表取締役
経済学博士
李登輝基金會最高顧問
台北駐日経済文化代表処顧問

1940年名古屋市生まれ。愛知県立瑞陵高校、慶應義塾大学法学部政治学科卒。政治学士、経済学博士。

元参議院議員、PHP総合研究所元社長、松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）元理事、内閣官房道州制ビジョン懇談会座長など歴任。

故松下幸之助氏の側近とも言われ、23年間ほとんど毎日毎晩、松下氏と語り合い、直接、指導を受けた松下幸之助思想の伝承者であり継承者。松下氏の言葉を伝えるだけでなく、その心を伝える講演、著作は定評がある。現在も講演、執筆に精力的に活動。

著書に「凡々たる非凡—松下幸之助とは何か」（H&I出版社）、「正統派リーダーの教科書」「松下幸之助はなぜ成功したのか」「ひとことの力—松下幸之助の言葉」「部下論」「上司力20」（以上、東洋経済新報社）など多数。



松下幸之助の「孫弟子」育成塾 「伯仲塾」開講記念 江口克彦先生 特別講演会 開催概要

日時

2020年1月21日（火）14:30-17:30

※江口先生講演・質疑応答・伯仲塾説明の3部構成を予定しています。

会場

東京・西新宿のセミナールーム（お申込頂いた方のみにご案内します）

講師

江口克彦先生

参加費

8,000円＋消費税（税込合計8,800円）

定員

80名限定

お申込方法と注意事項

ご参加をご希望の場合は、下記のリンクをクリック後、案内にしたがって必要事項をご記入の上、お手続き下さい。

ここをクリックして
今すぐ申し込む

会場のキャパシティの関係上、定員は80名限定となります。ぜひお申込はお急ぎ下さい。